

## 平成 29 年度 「認知症看護対応力向上研修」(大阪会場)HP 報告用

開催日: 2017 年 9 月 17 日(日)・18 日(月・祝)

会 場 : CIVI 研修センター新大阪東 6 階

受講者数: 1 日目 80 名(未入金 1 人欠席)、2 日目 79 名

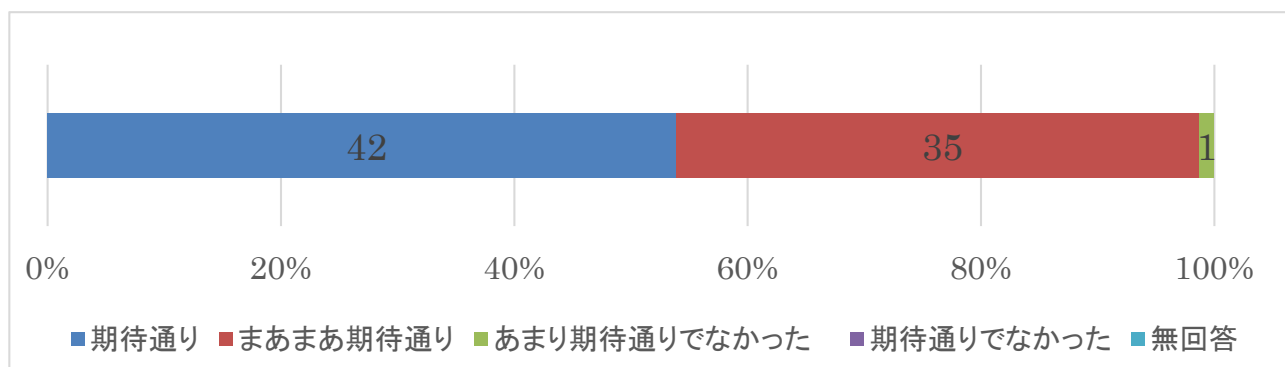
※89 人申し込み( 会員: 30 名 非会員: 59 名、受講証明書付与 79 名)

回答者: 79 名



### I 研修会全体について

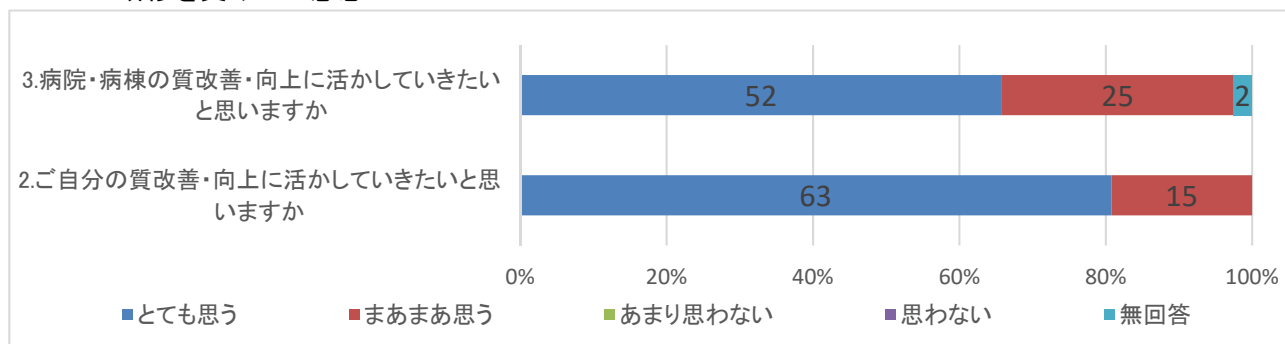
Q1. 研修の内容は期待どおりであったか



(自由記述の代表例)

- 自分が普段考え付かない事、本質を表現してもらい、普段行っていることの理由づけ・整理が出来た。
- 認知症を持つ患者の特徴について理解できた。
- 認知症看護は How to ではないことを再認識したうえでどう考えていけばよいか分かった。
- 認知症患者の家族のケアについて学べた。
- 認知症患者への対応について看護師の関わり、チームアプローチなどを学ぶことができた。

Q2～3. 研修を受けての感想



Q2: 研修を受けて、自分の認知症看護の質改善・向上に活かしていきたいと思うか(理由)

(自由記述の代表例)

- 観察点、着眼点、情報収集のバリエーションが増え看護のアセスメントに活かせると思う。
- 自分の病棟スタッフについて振り返るべき点がたくさんあったのでぜひ活かしていきたい。
- 相手の立場に立つこと、声掛けは笑顔でゆっくりと話すことを心掛けたい。
- 今までの接し方で不足していたスキルが少し理解できた。
- 急性期病棟で手術当日入院のある中、せん妄の理解、対応に活かしたい。
- 適切な対応をチームで行うための普及教育に役立てられる。

Q3: 研修を受けて、病院・病棟の認知症看護の質改善・向上に活かしていきたいと思うか(理由)  
スタッフ間での共有

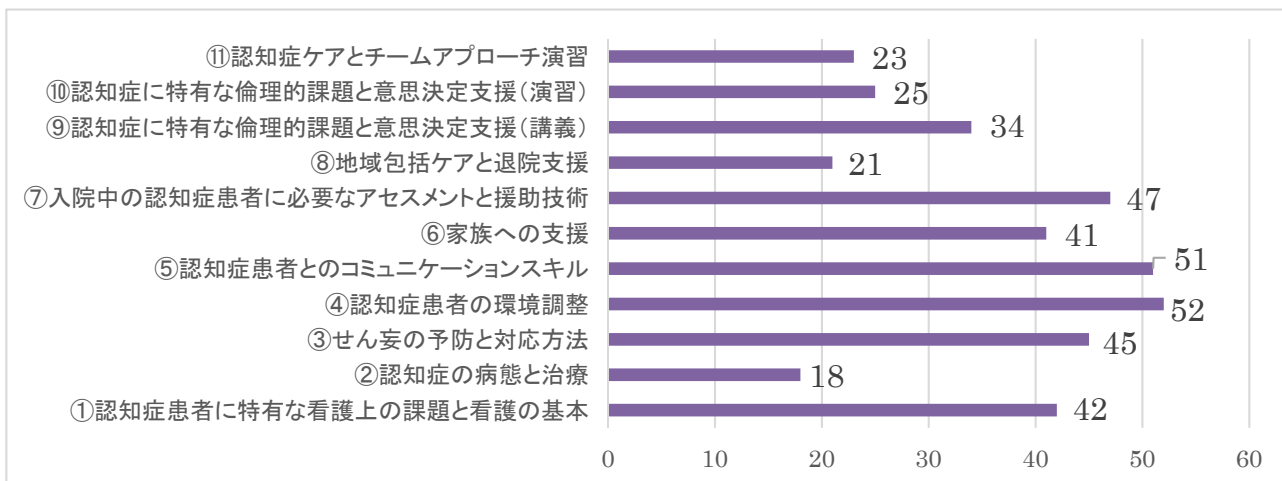
- 普段の患者との関わり方とスタッフ指導を見直す機会となりカンファレンスで取り入れたい。
- 認知症患者への対応で悩むことも多いためスタッフ間で共有していきたいと思った。
- 周囲の協力もふまえリスパダール服用についての開始スケール、中止の目安をカンファレンスで提案したい。
- 病院内での受付から退院まで一連の部署で認知症患者への対応の教育に役立てたい。
- ジレンマを持ちながら行っている拘束や患者対応について、みんなにももう一度自己を見直してほしい。
- 介護職員の初任者研修を行っており参考になった。

チームアプローチの必要性

- 1人では何もできない。チームで取り組むことが大切だと痛感した。

## II 研修会の内容について

Q4: 講義・演習について特に自分にとって収穫があったと思うもの(複数回答可)



Q5: 講義・演習に追加して欲しい内容、改善点

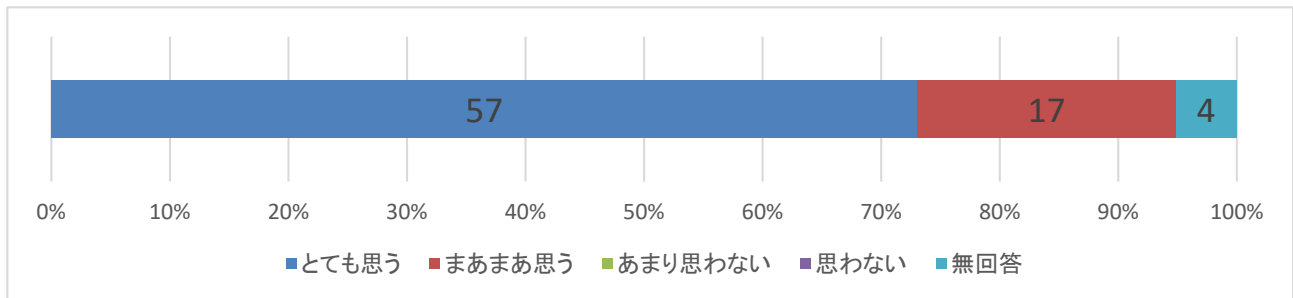
認知症の病態と治療

- ・具体的で分かり易かったが、もう少し基礎的なことや疾患を教えてください。
- ・病態の理解のためにテキストに図(脳の障害部分の絵など)欲しかった。
- ・進行が速すぎるかたもいたので、分かり易く伝えてほしい。
- ・現実と離れすぎていて怒られているように感じた。現実と理想の違いを受け入れにくかった。
- ・テキストとスライドが同じであってほしい(2票)

せん妄の予防と対応方法

- ・せん妄対応方法の演習を入れてほしい
- ・必要な看護診断の項目を追加して欲しい
- ・認知症看護加算の事例を用いた説明・方法についてもう少し知りたかった
- ・多方面からNSが集まっているので問題共有、問題解決プロセスなど経験できるワークショップもあるとよかった。

Q6: ご自身の病院・病棟において質改善・向上において今後このような研修は必要だと思いますか

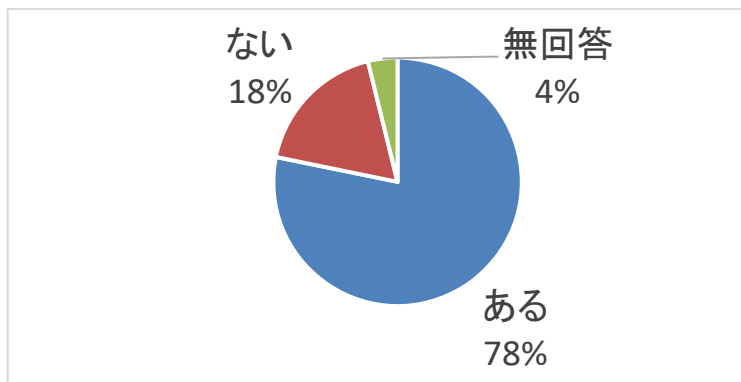


(理由)

- ・頭では分かっているが業務の忙しさで認知の方の看護には対応が不十分なことが多々あるため定期的に見直し改善していく。
- ・なんとなく関わっているスタッフも多いので具体的な関わり方の勉強が出来て病棟で活かすことができそう。
- ・スタッフ・病院全体が同じレベル、認識で関わらないといけないので必要だと感じる。
- ・施設はほとんど認知症の方なので職員が統一したスキルを持って日々のケアをしたいので研修は必要。
- ・患者に寄り添い相手の想いをくみ取り対応するようにしても時々感情が出てしまう事があり、自己や日頃の業務を振り返るためにも必要。
- ・認知症患者への関わり方が分からないスタッフが多く、BPSD を悪化させたりせん妄対応ができていたりするので必要。
- ・認知症患者に対してのコミュニケーションが行われていないため、研修を受けたことで改善できると感じた。

### Ⅲ 研修会後の病院・病棟での活用について

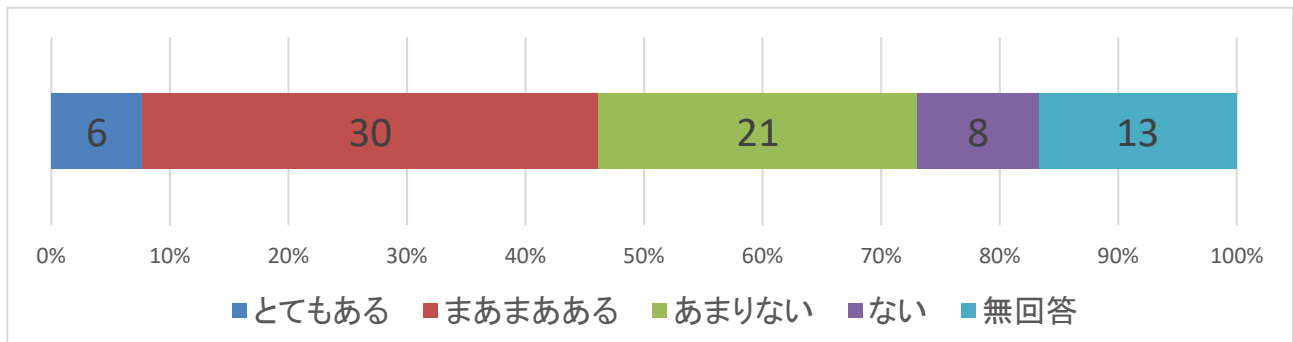
Q7. 研修会で学習した内容の病院・病棟での活用予定



#### Q8 「活用予定あり」の内容

病院・病棟報告会	33%
伝達講習会	35%
マニュアル作成	11%
看護計画立案	14%
その他	7%
(その他の内容)	
環境作り	
認知症の方への看護として	
認知症に関する教育計画	
スタッフへの個別指導	

Q9. 研修会で学習した内容を病院・病棟で活用・普及するにあたっての困難や障害



Q10.とてもある、まあまああると回答した方

“看護師の人手不足、時間の制限がある”

人員不足でゆっくりと関わる時間が取れていない。

業務多忙、職場の方針と足並みをそろえるため、すぐに活用することは難しい

スタッフの人材不足、多忙

受け持ち患者が多く、時間、業務に余裕がないことが多い

“病院の体制の問題”

・医師との協力体制不足。ほぼすべての事を看護師が実施しなければならない

・病棟スタッフ個人だけでは活用・普及が難しい

・病院、病棟において考えや職場風土があり、自分だけで行っていくには難しいため上司の協力が必要だが得にくい状況にある

“スタッフの意識改革が必要”

・看護補助やセラピストの考え方を変えなければうまくいかない

・スタッフの意識の変化

・病棟としての意識が高まっていない、最初の一

歩からの始動のため

・安全のために鎮静したり、身体抑制をせざるを得ない状況であり、患者層も広く、人員不足、多忙な状況で今回学んだことを頑張るように伝えても疲弊しているスタッフにはなかなか受け入れられない

・頭ではわかっているも行動変容に時間がかかる

“スキル不足、自信がない”

・自分一人で伝えられるか不安

・知識が自分の中に足りないため自信がない

・二日間の内容を十分に理解するには自己学習が必要

・他人に教えるレベルに達していない

“伝達が困難”

・スタッフの人数が多く伝達が困難

・介護職への伝え方を考える必要がある

・内容が多すぎて伝えきれない

・スタッフ全員にわかる内容、説明となるため難しい

・遠方から一人だけの参加で、全員に伝えられるか問題がある

“その他”

・現実に即した内容でどこまで取り入れられるかのジレンマがある

・座学で学んだ内容(理想的なもの)をどのように具体的に実践に落とし込んでいくかが問題。理解はできても実践へ結びつけるには課題がたくさんある

・雇用契約上、意見や提案が届きにくい現状にあるため

・感染管理専従のため

#### IV 自由記載

〈感想〉

・認知症患者への関わり方を再確認でき、多職種連携が大事だということがわかった。

・研修内容は理解できたが、実際に病棟で実践するのは難しいと感じた。

・人としての関係性の構築であり、特別なことではないということがよくわかった

・今後認知症について積極的に取り上げてみんなの意識を変えて欲しいと思った。

・最後のチームづくりのチャレンジプログラムは新鮮でとてもよかった。

〈今後の希望〉

・研修のスケジュールや参考資料は早めに欲しかった。別紙の資料ありなど説明して欲しかった。

・座学だけでなく、演習等をもっと取り入れて頂ければと思った。

・事例検討などがあれば色々な意見が聞けるので、他職種も含めた検討などがあればいいと思った。

・資料のDVD等も一緒に頂けるような研修会も企画して欲しい。

以上